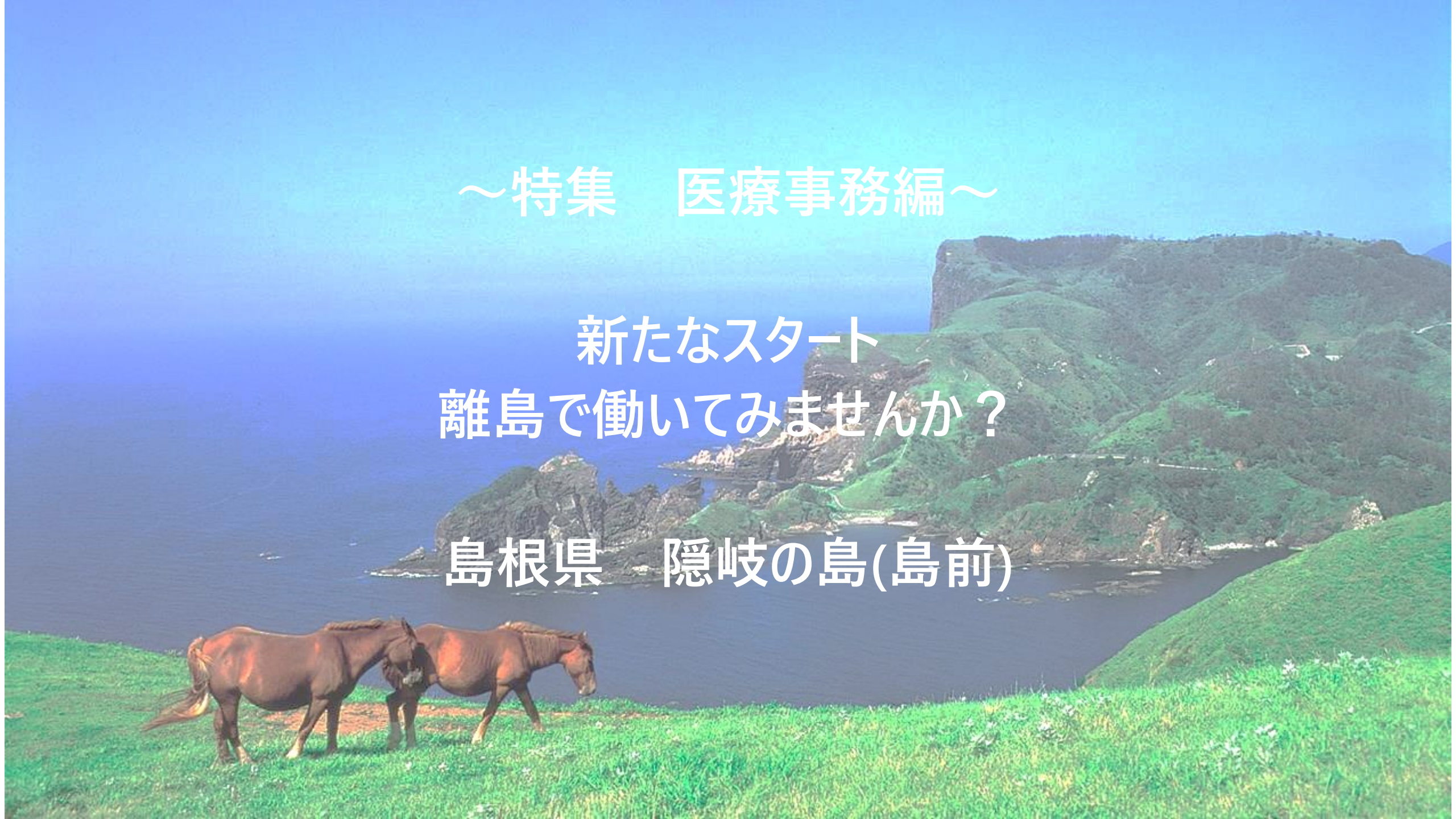


～特集　医療事務編～

新たなスタート
離島で働いてみませんか？

島根県　隠岐の島(島前)

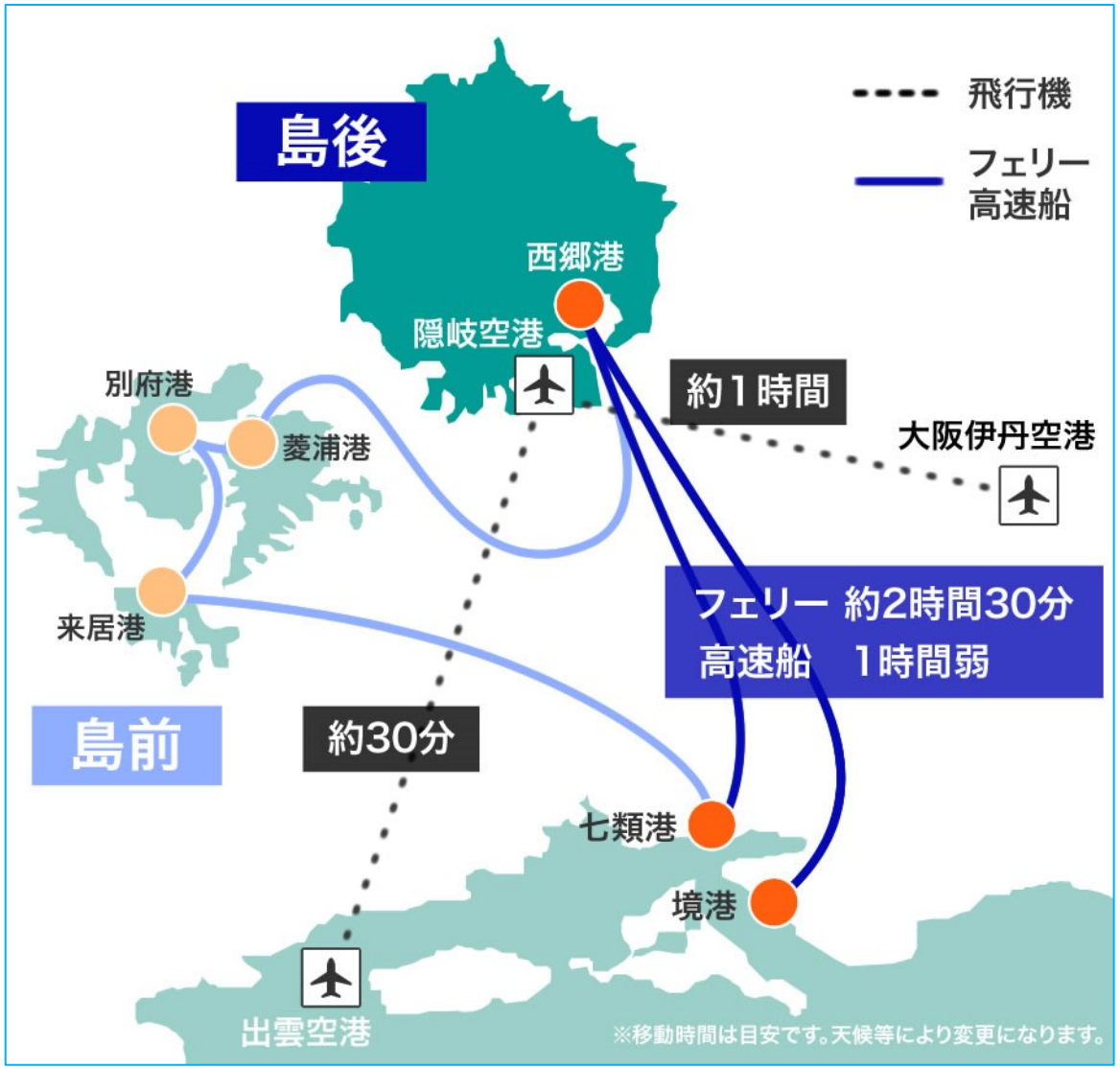
隠岐諸島とは

隠岐諸島と西ノ島町の位置

島根半島から北東へ約65km、日本海に浮かぶ隠岐諸島は大小180余りの島々から成り立つ群島型離島です。この中で人が住む島は西ノ島（にしのしま：西ノ島町）、中ノ島（なかのしま：海士町）、知夫里島（ちぶりじま：知夫村）、島後（どうご：隠岐の島町）の４つで、島後に対して西ノ島、中ノ島、知夫里島の３つをあわせて、島前（どうぜん）と呼び、大きく２群島に整理することができます。島前の人口は5,585人（2021年3月末現在）で西ノ島町は2,739人（2021年3月末現在）です。

【島後】
- 面積　241.64km^2
- 周囲　約211km
- 人口　約13,700人

【島前　西ノ島】
- 面積　55.97km^2
- 周囲　約117km
- 人口　約2,700人



スイング島前薬局
【薬局情報】
【住所】　　島根県隠岐郡西ノ島町美田2068-2
【開局時間】　月曜日から金曜日　9時～18時
【処方箋受付回数】1,280枚/月
【従業員】　薬剤師2名　事務員3名
【医薬品目数】　900品目
【設備】　　全自動錠剤分包機
散薬自動分包機、自動軟膏練機
ピッキングサポートシステム
レセプトコンピュータ、電子薬歴
POSレジ（導入予定）

⦿管理薬剤師インタビュー
海がしけると船が2～3日来ないので、最小限の薬は備蓄しています。900種類ほどありますが、同じ症状に使われる薬は何種類も用意せず、基本的な薬で対応しています。病院にも薬局にある薬の一覧をお渡ししています。また「スイング定例会」と称して2～3ヵ月に1回、ミーティングをしています。医師は各島の診療所におられますが、島前の薬局は『スイング島前薬局』だけ。薬剤師は2名と、島前病院に1名います。ここではいろんな処方せんが見られます。本土との違いは、名前と顔が一致する人しか来ないこと。患者さまの背景がよく見えるので、より親身になれます。
島前病院の前病院長は、僻地医療の権威として有名な方。パワフルな先生を慕って、全国から若いドクターたちがやってきます。
薬剤師の仕事を理解してくれる院長はチーム医療の中で、もっと薬剤師にも活躍して欲しい」と、疑義照会にも積極的にかつ的確に答えてくださいます。島にはケースワークの勉強会などもあり、すぐに在宅医療をスタートできる体制が整っています。在宅に興味のある方には最適な環境です。不便なことをあげれば、キリがありませんが「住めば都」です。社宅も完備し、スーパーもありますし、野菜や魚は近所の人が持ってきてくれます。必要なものはネットで買えますよ。

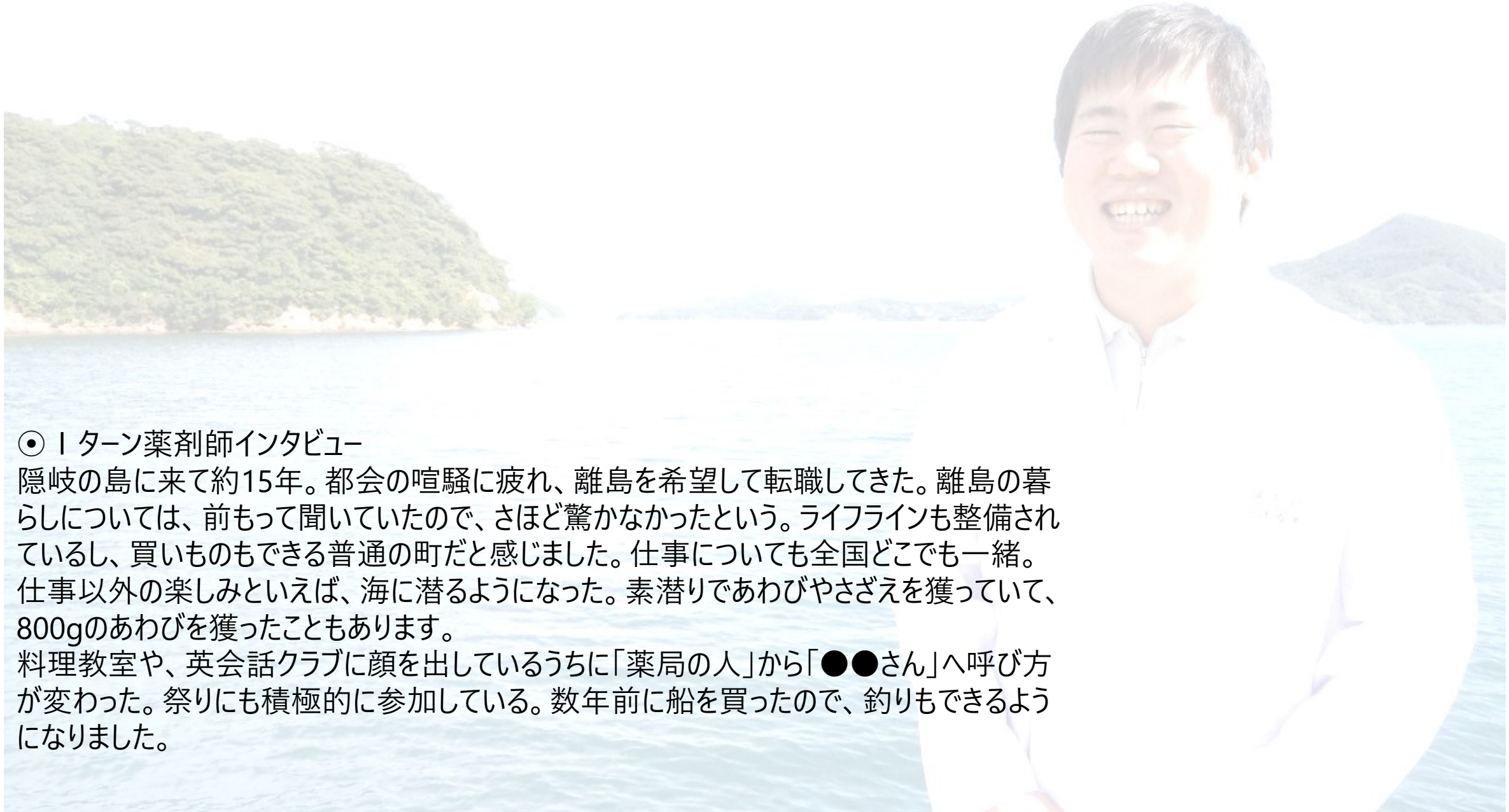
【処方元情報】
【病院名】　隠岐広域連合立　隠岐島前病院
【診療科目】内科・小児科・外科・耳鼻科・眼科・整形外科・精神科・産婦人科
【入院施設】　44床（一般病床20床・療養型病床24床）

島前の3島には開業医はなく、医療機関は各島にそれぞれ町立浦郷診療所、町立海士診療所、村立知夫村診療所があります。そして3島の中核的医療機関として1982年に島前町村組合立島前診療所が設立されました。1999年9月隠岐広域連合発足に伴い隠岐広域連合立島前診療所となり2001年増改築により隠岐広域連合立隠岐島前病院となりました。

近隣の浦郷診療所、隣島の知夫村診療所とは医師が相互に行き来する地域医療支援ブロック制を敷いており、離島勤務の孤独感やストレスを軽減すると共に、地域全体を複数の医師でカバーしています。また病院と各診療所間でカルテ情報が共有できる体制にしており、緊急時や医師不在時にも医療情報が途切れないように工夫しています。また西ノ島町は高齢化率44.6%と介護の問題も避けて通れず、関係諸機関と連携をとりながら、保健医療福祉として一元化したサービスを提供できるように取り組んでいます。
具体的には医師・看護師・社協スタッフ・ヘルパー等が参加するデイ会議を月2回開催し情報共有する事で実際の在宅療養医療の質の向上を図っています。
現在の病院長は黒谷先生ですが、前病院長の白石先生は現在でも週に3回は診察に出られています。白石先生は第2回「日本医師会　赤ひげ大賞」受賞をされており、離島医療に関して著名な先生で研修生の口コミが広がって、毎年約100名の医学生や看護学生が研修にやってきます。また医師・看護師の半数以上はIターン者です。

離島で働く

離島にとって近くに病院があるのが当たり前ではないというのが現実です。
離島の医療資源には限界があるため、住民を病気にさせない、重症にさせない
ための予防医療活動や公衆衛生も重要な仕事となります。
だからこそ、スタッフ一人一人の役割、存在意義が明確になり、より地域・住民に
近い存在で仕事が出来る仕事薬局であるといえます。
離島では全ての診療科に対応するため、自然と疾病予防、介護、看とり、地域の保健・
福祉活動など、幅広い問題について適切な対応ができる能力を身に付けることができます。
医療事務の仕事も、薬剤師のサポート的な役割でなく、医療事務（登録販売者など）
としてのスキルも上げれる環境です。



⦿ Ｉターン薬剤師インタビュー
隠岐の島に来て約15年。都会の喧騒に疲れ、離島を希望して転職してきた。離島の暮らしについては、前もって聞いていたので、さほど驚かなかったという。ライフラインも整備されているし、買いものもできる普通の町だと感じました。仕事についても全国どこでも一緒。
仕事以外の楽しみといえば、海に潜るようになった。素潜りであわびやさざえを獲っていて、800gのあわびを獲ったこともあります。
料理教室や、英会話クラブに顔を出しているうちに「薬局の人」から「●●さん」へ呼び方が変わった。祭りにも積極的に参加している。数年前に船を買ったので、釣りもできるようになりました。